

松永にて、 2009年8月13日  
フェルナンド ガナイス ミズベ

日本に住み始めて3年になります。このうちのほとんどの期間を、工場でブラジル人の同僚たちと就労していました。経済的により安定するため、また自分が本国に帰国した時により良く安定した将来を得る、という自分の夢と切り離していた働いた期間でした。

私が来日した当初の目的は「2年間できる限り働き、その後ブラジルに帰国して森林に関する学部の大学院で、製材過程における品質と物流管理の領域で学ぶ」というものでした。

最初は、日本語がほとんど理解できず、基本的な挨拶の「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」すら言えませんでした。けれども、少しずつ日本語を学び、日本語の教育を受けるようになり、日本人に対する尊敬を深めるようになりました。それは、私に関わりにある人たちだけでなく、全ての人々に対してです。そして、私は日本の文化に対しても関心を抱くようになり、働くだけでなく、日本のことをより知り、学ぶためにこの滞在期間を利用しようと考えようになりました。

滞日期間が長くなるに従い、日本は働くためだけにいる所ではない、自分が生きていくのに最適な場所ではないかと考えるようになり、この地でより自分にあった居場所を探し始めています。

日本の特性の中で、際立っているもののいくつかは、治安の良さです。例えばブラジルでは、窓に格子があるのは当たり前なのですが、ここでは24時間、不安を覚えることなく街を歩くことができます。

教育については、子どもたちが就学率がほぼ100%である、唯一の国と言えるのではないのでしょうか。これは、日本の法制度が整い組織化されていることが反映しているのではないのでしょうか。

インフラ整備については、交通システム、特に、電車に関しては羨ましいぐらい、時間に正確で、いつ旅行しても、時間を無駄にすることがありません。

レジャーについては、ブラジルと同じように、景色がよく、興味深くて楽しめる場所がたくさんあります。

今年、仕事を辞めて、日本の大学院に進学する為に日本語学科で勉強を始めることにしました。

専門家となるには、いばらの道のりだとは思いますが、この苦労は、将来、きっと、自分にとって大きな成果を生み出すだろうと思っています。

例えば、日本の大学院の修了証書は、世界の至るところで、認められ、真価を発揮する事でしょう。ブラジルは、森林関連の生産物を大量に輸出している国であり、日本はこの生産物の主な消費国でもあるので、両面から影響しあうことができます。この生産物に関して、品質と、何よりも期待されている環境保全に関する要望を知ること、生産方法などを検討することができるでしょう。

私は、自分が希望している研究のコースが修了しても、ブラジルに帰国するつもりはありません。私は、職業に貴賤はないと思っています。けれども、日本で私の専門性を生かした職につければと考えています。大学に入学し、今は日本の大学院を卒業できたらと願っているのですが、そうなれば約10年間この学問に専念することになります。

企業の利益のためだけでなく、よりよい環境を保護していくために、私たちは協力していくことができるのではないのでしょうか。